

愛媛県愛南町惣川河口で得られたアミメノコギリガザミ

後藤益滋¹・尾寄蓮月¹・丹生谷孟¹¹ 人間環境大学総合環境学部フィールド自然学科水域保全研究室

写真1 *Scylla serrata* (Forskål, 1775) アミメノコギリガザミ (愛媛県南宇和郡愛南町満倉, 2025年10月19日, 後藤益滋撮影)

種の記録

Portunidae ワタリガニ科

Scylla serrata (Forskål, 1775)

アミメノコギリガザミ(写真1)

確認記録

確認年月日: 2025年10月19日. 確認地点: 愛媛県南宇和郡愛南町満倉 (32.947494N, 132.608046E). 確認方法: 双眼鏡(Kenko ultaVIEW)による目視. 1個体(性別, 甲長および甲幅不明).

種の特徴

確認個体の体全体は暗緑色を呈しており, 甲殻表面にはわずかに光沢が見られた. 鉗脚は左右ともに非常に大きく発達し, その先端付近は褐色から赤色を呈していた. 特に, 外側面には筋肉の発達を反映するような膨らみが顕著であった. 眼孔上縁の間には深い切れ込みが認められ, 額縁には4枚の歯状突起が明瞭に並び, それぞれが二等辺三角形に尖っていた. さらに, 歩脚には網目状の明瞭な模様が目視で確認され, 節間部にも細かな斑点が散在していた. これらの特徴はいずれも本種の形態的特徴(坂地・伏屋, 2015)と一致していた.

備考

本種は房総半島以南から沖縄県沿岸の汽水域・干潟・マングローブ林に分布し, インド洋から西太平洋域にも広く生息する. 本種は国内ではこれまでトゲノコギリガザミ *S. paramamosain* Estampador, アカデノコギリガザミ *S. olivacea* (Herbst)とともにノコギリガザミと呼称されていたことがあり, 過去にノコギリガザミとして報告された記録にはいずれの種が該当するか不明なものもある. 愛媛県では瀬戸内海, 宇和海からノコギリガザミとしての記録があり(愛媛県, 1951; 安永, 1984), アミメノコギリガザミとしては宇和島市から目録的に, 愛南町からは産地不明ながら生時の写真による記録がある(水野, 2009; 知恵の輪ホームページ https://www.fureai-cloud.jp/_view/tie/doc/view/21832/, 2025年10月27日参照). 本報告は生態写真による, 確認地点が明らかな宇和海流入河川からのアミメノコギリガザミの記録である. 本種は, マングローブやヨシが繁茂する泥地に直径20~30cmの巣穴を掘って生活しており, 今回の個体も同様に, ヨシ原の満潮時には冠水する泥底に開いた穴(直径29cm)の入り口付近で確認された. 確認地点の周辺では他にも巣穴とおぼしき場所を9か所確認したが, 個体確認までは至らなかった.

引用文献

- 愛媛県. 1951. 忽那七島調査書. 愛媛県, 60pp.
水野晃秀. 2009. 愛媛県来村川河口域で2008年夏に発生した青潮による魚類とカニ類への影響. 南予生物, 15: 58–59.
坂地英男・伏屋玲子. 2015. ノコギリガザミ属の種名と和名の対応の変遷. 日本甲殻類学会, CANCE, 24: 47–51.
安永正雄. 1984. 暖地の動物. 宇和島地方の自然, 愛媛の自然文献資料集その2. 愛媛県立博物館, 239–241.

(2025年10月24日受付, 2025年11月9日公開)

連絡先: 後藤益滋 (e-mail: m-goto@uhe.ac.jp)

(Masuji Goto, Renge Ozaki and Hajime Nyunoya. 2025. Occurrence of the orange mud crab *Scylla olivacea* (Portunidae) at the mouth of the Sokawa River, Ainan Town, Ehime Prefecture, Japan. NS Fieldnote, 25031)